雇用は堅調維持の見込み　～米雇用統計

2014年6月30日（月）

早いもので今週から7月。2014年も半分が過ぎる計算となります。
週初ということで、今週は月一のビッグイベント、米雇用統計（6月）が発表されます。

ちなみに、いつもは金曜日に発表される同指標ですが
今週金曜日7月4日は米国の独立記念日でお休みのため
前日木曜日の発表となります。

さて、前回5月分の雇用統計は
非農業部門雇用者数がほぼ事前見通しどおりの＋21.7万人。
失業率が事前見通しよりやや強く、4月分と同じ6.3%となりました。

内訳を見てみますと
製造部門では
建設業が5ヶ月連続でのプラスとはいえ
これまでと比べて増加幅がかなり抑えられ
＋0.6万人増にとどまったほか、
製造業も＋1.0万人とそこそこの数字。
悪くは無いものの、強いというほどでもないという結果になりました。

もっとも、非製造部門は好調な数字が目立ちました
リーマンショック以降の雇用市場を支えてきたヘルスケア＆ソーシャル部門が
＋5.49万人とこのところの流れを引き継いで大幅な増加を記録。
労働市場の先行指標として知られるテンポラリースタッフ部門も
＋1.43万人と、こちらも好調な数字となりました。
景況感との相関が高い小売部門が＋1.25万人と前回の＋4.31万人ほどでは無いものの好調。
同じく相関が高い飲食店が＋3.17万人とこちらも相当な好調な結果となっており
景気の回復を受けて、
個人の財布の紐がゆるくなっているという状況が感じられる結果となっています。

この結果を受けての今回の予想ですが
非農業部門雇用者数が＋21万件と
5月の21.7万件とほぼ同水準。
失業率は6.3%と5月と変わらずになっています。

先週発表された第1四半期GDP確報値が-2.9%と
2009年第1四半期以来の大幅なマイナスを記録しましたが
雇用統計以外の指標による直近の状況からも
その後は順調な回復を見せているといわれており
予想通りの好結果は十分期待できる状況。

関連指標として
週間ベースの新規失業保険申請件数を見てみますと
今週発表の雇用統計と計測期間がかぶる08日ー14日の結果は
31.4万件（速報時31.2万件）と比較的好結果。
その翌週も31.2万件となっており
直近4ヶ月続けての31万件台となかなかの数字になっています。

直近の指標を見ると、
中古・新築の住宅販売がともに予想を上回ったことや
個人消費動向との相関が高いコンファレンスボード消費者信頼感が
予想を大きく上回る85.2と2008年1月以来の高水準を記録するなど
いくつかの指標動向からも
米景気の回復動向はしっかりという見方が強いだけに
予想通りもしくはそれ以上の数字が出て
夏以降の米景気の回復期待をしっかり支えてくるかどうかがポイントです。

株式会社インベステックは信頼できる情報をもとに本資料を作成していますが、正確性・完全性について株式会社インベステックが責任を負いません。
本資料は、情報提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資決定にあたっては、投資家ご自身の判断でなされますようお願いいたします。
本資料に掲載されている情報の著作権は株式会社インベステックに帰属し、本資料に掲載されている情報を株式会社インベステックの許可なしに転用、複製、複写することはできません。
© 2014 Investech K.K. All Rights Reserved.